

船舶事故等調査報告書

平成22年6月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第26号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成22年2月27日 10時02分ごろ	
発生場所	京浜港横浜区山下ふ頭8号岸壁 横浜本牧防波堤灯台から真方位287° 2,400m付近 (概位 北緯35°27.0′ 東経139°39.8′)	
事故等調査の経過	平成22年2月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船種船名、総トン数 船種船名、総トン数</p> <p>A 自動車運搬船 ^{クール スター} COOL STAR、9,999トン 8911267（IMO番号）、Excellent Fleet Management</p> <p>B 貨物船 ^{アジアン ハーモニー} ASIAN HARMONY、4,353トン 9196486（IMO番号）、Laurel Maritime Co Ltd</p>	
乗組員等に関する情報	<p>A 水先人、東京湾水先区水先人 船長、フィリピン共和国免状</p> <p>B 船長、キプロス共和国免状</p>	
死傷者等	なし	
損傷	<p>A 右舷舷梯凹損、右舷側中央外板凹損</p> <p>B 船橋右舷救命浮環箱損傷、右舷ポートデッキ甲板凹損</p>	
事故等の経過	<p>A船は、船長Aほかフィリピン人17人が乗り組み、自動車1,163台を積載し、平成22年2月27日09時24分ごろ水先人Aが乗船して京浜港横浜区山下ふ頭7号岸壁からの出港準備を整えた。</p> <p>B船は、船長Bほかフィリピン人15人が乗り組み、A船に隣接する山下ふ頭8号岸壁に左舷着けで着岸していた。</p> <p>水先人Aは、A船の左舷船尾にえい船のラインをとり、船首付近にもう1隻を待機させ、09時50分ごろ全係留索を解らんしたのち、投入していた左舷錨を巻き、船尾えい船に左舷正横方向へ引かせて7号岸壁から離岸した。</p> <p>A船は、09時59分ごろ極微速力前進、10時00分ごろクリアアップアンカー状態となるとともに微速力前進、10時01分ごろに半速力前進としたところ、風が強くて右舷方のB船に向かって圧流されたので全速力前進としたが、10時02分ごろ、8号岸壁のB船の右舷側にA船の右舷側が接触した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 5、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 ほぼ低潮時</p>	
その他の事項	A船は自動車専用船で受風面積が大きい船型であった。	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	あり
	判明した事項の解析	A船は、京浜港横浜区山下ふ頭において、離岸

	<p>する際、強風に圧流されて着岸中のB船に衝突したものと考えられる。</p> <p>A船は、風力5の風が吹く状況下、受風面積の大きい船型であったが、離岸前に船首尾の両タグボートからタグラインを取るなど、風圧に対する適切な備えをしていなかった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、A船が、京浜港横浜区山下ふ頭において離岸する際、A船が風で圧流されたため、着岸中のB船に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>